１．

　私が幼稚園から小学校にかけて学年を共にした人物で、ラベリングの効果が顕著に現れでた人がいます。彼女は教師から高く期待されており、この高い期待の所以には多くの要因が絡んでいました。まず、教師の高い期待には、彼女の口語パターンが大きく作用していたことだと思います。私の学校は人種、ナショナリティーが多様な生徒の通う学校でしたが、言語は英語で統一されており、なおかつ黒人系やヒスパニック系に多いようなスラングの英語（標準的な英語とは異なった文法、表現上の特徴を持つインフォーマルでサブカルチャー的な英語）や異言語は禁止されていました。いわゆる精密コードの英語が奨励され、それを操らないような人間がいれば矯正されました。しかし、綺麗な精密コードの標準的な英語を日常的に話す習慣がついている子供というのは、中産階級の白人の子供以外にいなかったため、必然的にこのようなデモグラフィックの子が優秀と目され、そこに期待が寄せられました。教師から高い期待を受けた私の友人もまた例に漏れず、文法的に誤りのない標準的な英語を話しました（というかそれしか話すことができませんでした）。彼女は容姿も非常に綺麗で品があり、キリスト教的な倫理観にかなった丁寧で露出の少ない、フォーマルな服装をしており、外見に彼女のSESの高い家庭背景が現れていました。このような外見が先生に与えた印象も、期待の形成に大きく寄与したと考えられます。また、彼女は教育熱心な親を持ち、片親が専業主婦であったということもあり生活リズムも整っており全体的にきちんとしておりました。非常に厳格で伝統的な道徳観も強く根付いており、行動面において規範的な生徒として多くの先生から賞賛されていました。このように、彼女は学校の持つブルジョワ的、WASP的価値観と相性が良かったため、教師からの期待も多く寄せられました。

　教師からの高い期待が彼女の行動、人柄に与えた影響は明瞭です。彼女は教師との信頼関係が厚く、先生を補助する存在として他の生徒に授業内容を教えたり、生活面での指導を行ったりをしました。このような立場にあった彼女は他の生徒に比べて優越意識が強く、素行の悪い生徒や学業面で劣っている生徒と混じることが少なく、先生の威を借りて権力と指導力を持ち、リーダーシップを発揮しました。勉強にも熱心であり、先生の補助役という立場を維持するために必死に予習を積み、学年の他の誰よりも勉強ができるようにしていました。また、道徳的にも優良な生徒として多くのボランティア活動に従事しました。彼女は最終的にイエール大学に進学しましたが、教師や周囲の期待に応えるというプロセスが自然と彼女がエリート校へと進学するということに結実したのだと思います。

　高校では私自身が先生から高く評価され、期待されるようになりました。私はもともと指揮力と行動力があり、学校の方針や政治的議論において活発に発言して周囲に大きな影響を与えていました。私の積極的な社会参加の姿勢が、学校の固持していた、社会を牽引する存在としての理想的な男性の像と融合し、「彼は優秀だ」という思い込みと高い期待を招いたのだと思います。反対にその高校の女子生徒には非常に控えめで学業面で劣っている生徒が多く、これは学校が持つ「女性」のステレオタイプが教育内容や教師の期待に色濃く反映されていた結果でした。また、私は特に先生と議論する際に非常にフォーマルで論理的な話法を取り入れていたため、そのような口語パターンも教師からの期待に繋がったのだと思われます。また、先生から私への高評価と高い期待は高校生活の後半から本格化しましたが、その裏には高校時代の私の優秀な成績や課外活動における功績などの積み重ね、さらには姉の学歴などの経歴による後光効果がありました。教師陣は私の成功を強く期待するようになり、優秀な生徒として持ち上げるようになりました。

　私は当初、このような周囲の期待には現実を歪ませる先入観や表面的な結果主義を感じて強く反抗しましたが、徐々に教師の期待に裏切らないような行動をとるようになりました。私は高校二年時までは大学に進学するつもりが全くありませんでしたが、多くの先生から大学進学、それも高い学力を有する大学の受験を強く勧められたため、受験勉強を始めました。その結果、私は早稲田大学に合格するだけの学力をつけることに成功し、高校時代に刷り込まれたエリート意識がさらに強化されるような環境に身を置くことになりました。期待に応えることがさらなる期待を呼び、ついには主体性や能動性を無くし、期待に応えることによる周囲からの承認を糧に惰性的に高いSESのトラックを進んでいる自分が出来上がりました。

２．

　私が通っていた小中高一貫校に小学校四年の時に編入してきた子がいましたが、彼女はキリスト教系の保守的な環境に順応するのに苦しみ、その当初のトラブルの印象から教師にネガティブなラベルを貼られました。彼女はヒスパニック系で以前はハワイの低所得者層の集中している地域に住んでいたため、私の学校に編入した時は相容れない文化的な違いに対面しました。彼女はスラングとカースワーズを多く織り込んだ口語パターンであり、標準的な英語しか受け入れない学校にしょっちゅう指導を受けていました。また、気候と文化的に露出の多い服が普通であるハワイの頃の習慣を引きずり、露出の多い衣装をまとっていたのも教師との不調和の原因となりました。このような対立が早期に多くあったこともあり、教師の間で早くに彼女の評判は伝わり、彼女が接触のない教師にまで警戒視されるに至りました。何か問題があるとすぐに彼女の名前が上がり、教師は隠すことなく彼女への不信と猜疑心を公開していました。

　こういった態度は彼女にマイナスな影響を与え、最初は順応しようと努力していた彼女も次第に反抗的な態度をとり、積極的に学校の教師を怒らせるような行動をとるようになりました。学校内で彼女の存在が「悪」として確立されると、彼女もこれを自分のアイデンティティとして受け入れるようになり、悪行に手を染めるようになりました。飲酒や性的奔放さという社会的に良くないこととして見られる行動や、さらには麻薬などにも手を出し、学校ではられたネガティヴなラベルは、彼女が社会に適合するつもりのない行動をとるという点に関しては、しっかりと内在化されました。

　高校においては、女性という集団全体がネガティヴなラベルを貼られました。女性は勉学における成功を期待されず、むしろ家庭的修養や品行等の行動的側面での教育が強調されました。この学校全体の傾向は進路指導において最も顕著に現れ、中には女性は理系選択をするべきではないと勧められたばかりに意に反して文系選択へと進んだ女学生もいました。女性に勉強面であまり期待しない学校の風土の結果、女性は四年制大学進学率が男性よりも低く、また看護科以外の理系選択の女子生徒の数が非常に少なかったです。